

# ワールド・フィンテック革命ファンド (為替ヘッジあり/為替ヘッジなし)

## 運用報告書 (全体版) 第5期

(決算日 2020年12月10日)

(作成対象期間 2020年6月11日~2020年12月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/株式	
信託期間	約5年間(2018年6月11日~2023年6月9日)	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし) (適格機関投資家専用)の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーストック・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00~17:00)

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2752>

<2753>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、米ドルベース)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期騰落 中率	(参考指数)	期騰落 中率			
1 期末(2018年12月10日)	円 9,098	円 0	% △ 9.0	9,229	% △ 7.7	% -	% 99.0	百万円 13,775
2 期末(2019年 6 月10日)	10,363	50	14.5	10,074	9.2	-	99.6	14,378
3 期末(2019年12月10日)	10,798	150	5.6	10,943	8.6	-	99.1	9,894
4 期末(2020年 6 月10日)	11,330	100	5.9	10,950	0.1	-	99.1	9,116
5 期末(2020年12月10日)	12,062	1,100	16.2	12,888	17.7	-	99.6	7,127

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

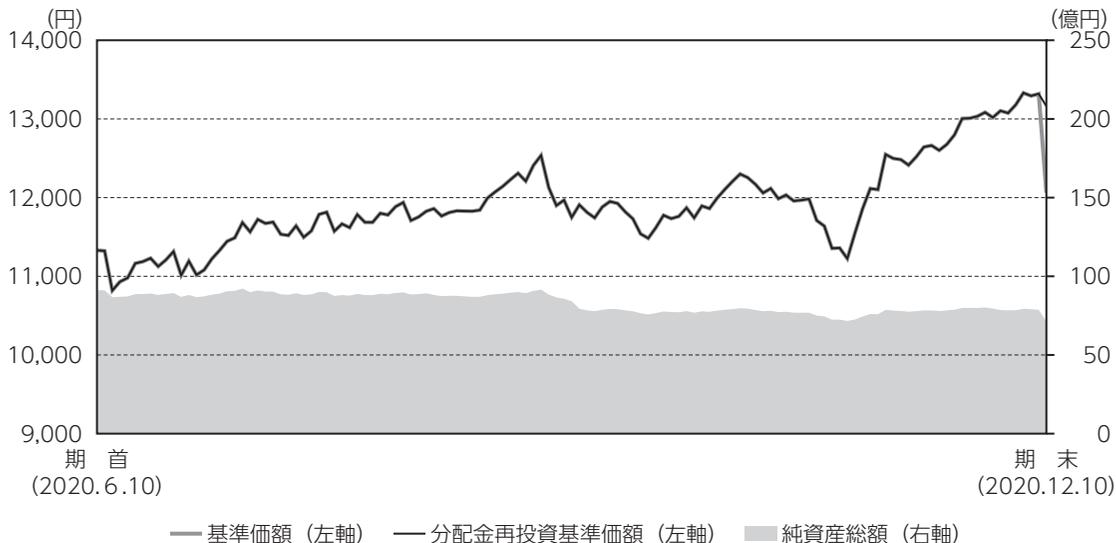
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：11,330円

期末：12,062円（分配金1,100円）

騰落率：16.2%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期は、主に米国の保有銘柄の株価が総じて上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、米ドルベース)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2020年 6月10日	円 11,330	% -	10,950	% -	% -	% 99.1
6 月末	11,081	△ 2.2	10,526	△ 3.9	-	99.4
7 月末	11,686	3.1	11,201	2.3	-	99.3
8 月末	12,310	8.6	11,923	8.9	-	99.0
9 月末	11,733	3.6	11,463	4.7	-	99.0
10 月末	11,360	0.3	11,366	3.8	-	99.6
11 月末	13,084	15.5	12,736	16.3	-	99.5
(期末) 2020年12月10日	13,162	16.2	12,888	17.7	-	99.6

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2020.6.11~2020.12.10)

## ■グローバル株式市況

グローバル株式市場は上昇しました。

グローバル株式市場は、当作成期首より、各国で新型コロナウイルス感染症拡大防止のために施行したロックダウン（都市封鎖）措置を緩和したことや主要中央銀行による金融緩和政策などを受け、堅調に推移しました。その後も、市場予想を上回る企業業績の発表や世界経済の回復見通しなどが支援材料となり、株価は上昇しました。2020年9月に入ると、これまでの株価上昇に対する高値警戒感や欧州での新型コロナウイルスの感染再拡大、米国大統領選挙の結果に対する不透明感などが懸念材料となり、下落に転じました。11月以降は、米国大統領選挙を終了して市場の今後の見通しに対する不透明感が和らいだこと、新型コロナウイルス向けワクチンの臨床試験で高い効果を示すデータが公表されたことなどから株価は反発に転じ、当作成期末にかけて大幅上昇となりました。



## ■前作成期末における「今後の運用方針」

## ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

## ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

多くの先進国がロックダウン（都市封鎖）措置を緩和し始め、これまでのところ経済活動再開がおおむね順調に進んでいるものの、景気回復の時期や今後の見通しは依然として不透明です。しかし、世界主要国の中央銀行や政府が経済を下支えするために、前例のない金融政策や財政政策を迅速に打ち出し

## ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり）

たことは、感染再拡大が引き起こす経済への二次的な影響を大きく軽減させると考えられます。当面の間、市場の変動性が高い状態は続くと思われるものの、景気の見通しがより明らかになって市場が本格的に回復するまで、金融政策が市場全般を支え続けると考えています。

フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2020.6.11~2020.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）とダイワ・マネーストック・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）を高位に組み入れました。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

当作成期は、「キャッシュレス・ビジネス」では、米国の金融サービス大手フィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービスズやクレジットカード会社のビザなど、「フィンテック技術基盤」では、会計ソフトを提供する米国のインテュイットなど、「次世代金融リーダー」では、米国の資産運用会社ブラックロックなどに投資を行いました。同業他社と比較して割安になっていた米国の決済サービスを提供するウエックスや金融情報処理システム会社のファイサーブを新たに組み入れました。また、SaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）型クラウドサービスが好調で株価が上昇した米国のクラウドアプリケーションを提供する企業ワークデイの株式を全売却しました。

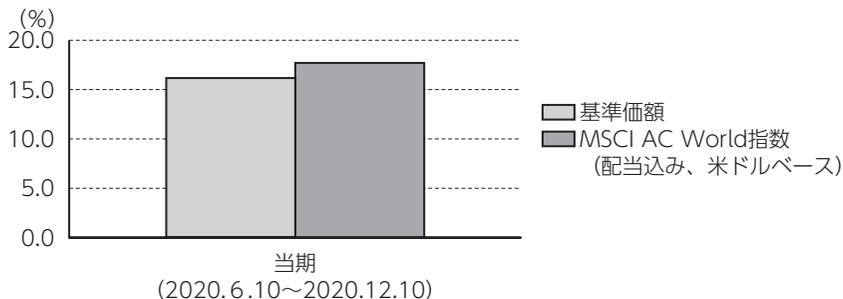
また、保有する実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため為替ヘッジを行いました。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2020年6月11日 ～2020年12月10日	
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)	<b>1,100</b>	
対基準価額比率 (%)	8.36	
当期の収益 (円)	1,100	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	2,103	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,820.81
(c) 収益調整金	148.65
(d) 分配準備積立金	1,233.86
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	3,203.33
(f) 分配金	1,100.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	2,103.33

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

株式市場は中期的に堅調に推移していくと考えます。新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたことにより、2021年の持続的な景気回復への期待が持てます。長期にわたって緩和的な金融政策が維持されると同時に財政支援策が2021年も継続される可能性が高く、これらの政策が株式市場全般を下支えするとみています。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現金決済からデジタル決済への移行が加速したことは、フィンテック分野への追い風となっています。また、コロナ危機の経験から、多くの企業は将来起こり得るパンデミック（世界的大流行）に備え、今後もビジネスに不可欠なデジタル化へ投資し続けていくと思われます。これらを背景に、今後も最先端のクラウド型ソリューション、臨機応変に対処可能なIT（情報技術）システム、サイバーセキュリティ、高性能のビッグデータやAI（人工知能）エンジンに対する強い需要が見込まれます。

フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のITを用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

また、保有する実質外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2020.6.11~2020.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	74円	0.618%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,922円です。
（投 信 会 社）	(23)	(0.193)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(49)	(0.414)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.011)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	74	0.622	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

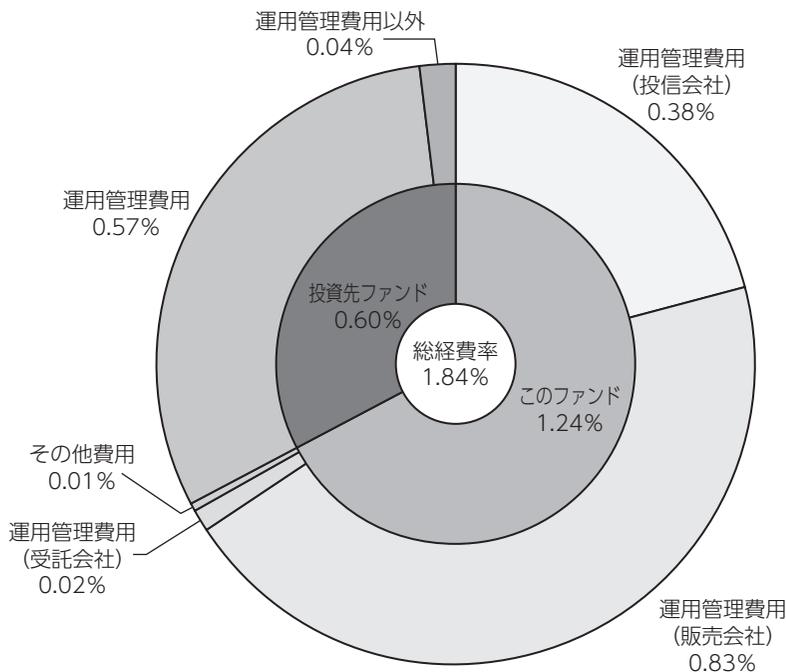
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直前の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.84%です。



総経費率 (①+②+③)	1.84%
①このファンドの費用の比率	1.24%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

（2020年6月11日から2020年12月10日まで）

国	買付	付		付	
		数	金額	数	金額
内	千口	千円	千口	千円	
アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	66,116.042	80,000	2,556,517.885	3,275,000	

（注1）金額は受渡し代金。  
（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口数	評価額	比率
国内投資信託受益証券 アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	千口 5,091,251.203	千円 7,098,731	% 99.6

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首 当 期 末		
	口数	口数	評価額
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	千口 0	千口 0	千円 0

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年12月10日現在

項 目	当 期 末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 7,098,731	% 89.9
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	0	0.0
コール・ローン等、その他	795,390	10.1
投資信託財産総額	7,894,123	100.0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	7,894,123,198円
コール・ローン等	795,390,648
投資信託受益証券(評価額)	7,098,731,552
ダイワ・マネーストック・マザーファンド(評価額)	998
(B) 負債	766,939,817
未払収益分配金	649,977,007
未払解約金	65,269,360
未払信託報酬	51,349,669
その他未払費用	343,781
(C) 純資産総額(A - B)	7,127,183,381
元本	5,908,881,886
次期繰越損益金	1,218,301,495
(D) 受益権総口数	5,908,881,886口
1万口当り基準価額(C / D)	12,062円

\* 期首における元本額は8,046,751,985円、当作成期間中における追加設定元本額は312,766,526円、同解約元本額は2,450,636,625円です。  
\* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,062円です。

■損益の状況

当 期 自2020年6月11日 至2020年12月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 28,153円
受取利息	5,967
支払利息	△ 34,120
(B) 有価証券売買損益	1,127,608,189
売買益	1,264,714,807
売買損	△ 137,106,618
(C) 信託報酬等	△ 51,694,101
(D) 当期損益金(A + B + C)	1,075,885,935
(E) 前期繰越損益金	729,057,746
(F) 追加信託差損益金	63,334,821
(配当等相当額)	( 87,839,879)
(売買損益相当額)	(△ 24,505,058)
(G) 合計(D + E + F)	1,868,278,502
(H) 収益分配金	△ 649,977,007
次期繰越損益金(G + H)	1,218,301,495
追加信託差損益金	63,334,821
(配当等相当額)	( 87,839,879)
(売買損益相当額)	(△ 24,505,058)
分配準備積立金	1,154,994,827
繰越損益金	△ 28,153

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。  
（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。  
（注3）収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	1,075,896,173
(c) 収益調整金	87,839,879
(d) 分配準備積立金	729,075,661
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	1,892,811,713
(f) 分配金	649,977,007
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,242,834,706
(h) 受益権総口数	5,908,881,886口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	1,100円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)		公社債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期騰落 中率	(参考指数)	期騰落 中率			
1 期末(2018年12月10日)	円 9,250	円 0	% △ 7.5	9,491	% △ 5.1	% -	% 99.0	百万円 82,127
2 期末(2019年 6 月10日)	10,279	50	11.7	9,992	5.3	-	99.3	83,535
3 期末(2019年12月10日)	10,777	150	6.3	10,869	8.8	-	98.6	61,678
4 期末(2020年 6 月10日)	11,273	100	5.5	10,788	△ 0.7	-	99.4	55,312
5 期末(2020年12月10日)	11,943	950	14.4	12,284	13.9	-	99.5	43,958

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCI AC World指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

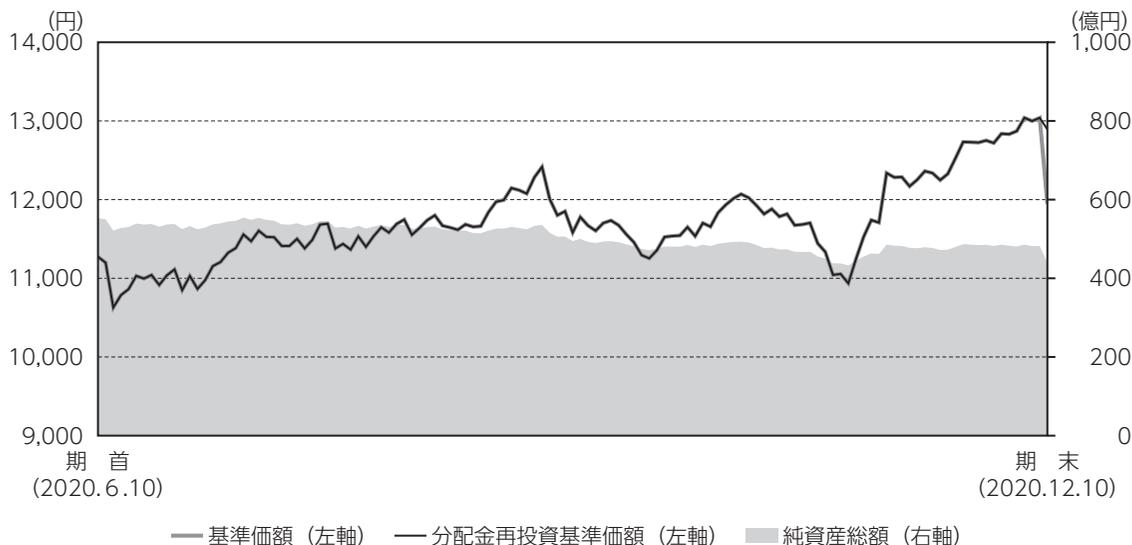
(注5) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：11,273円

期末：11,943円（分配金950円）

騰落率：14.4%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期は、主に米国の保有銘柄の株価が総じて上昇したことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準 価 額		MSCI AC World 指数 (配当込み、円換算) (参考指数)		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率
	円	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2020年 6月10日	11,273	% -	10,788	% -	% -	% 99.4
6 月末	10,976	△ 2.6	10,365	△ 3.9	-	99.5
7 月末	11,400	1.1	10,709	△ 0.7	-	99.5
8 月末	12,120	7.5	11,481	6.4	-	99.1
9 月末	11,537	2.3	11,085	2.8	-	99.1
10 月末	11,055	△ 1.9	10,866	0.7	-	99.3
11 月末	12,752	13.1	12,093	12.1	-	99.1
(期末) 2020年12月10日	12,893	14.4	12,284	13.9	-	99.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2020.6.11~2020.12.10)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市場は上昇しました。

グローバル株式市場は、当作成期首より、各国で新型コロナウイルス感染症拡大防止のために施行したロックダウン（都市封鎖）措置を緩和したことや主要中央銀行による金融緩和政策などを受け、堅調に推移しました。その後も、市場予想を上回る企業業績の発表や世界経済の回復見通しなどが支援材料となり、株価は上昇しました。

2020年9月に入ると、これまでの株価上昇に対する高値警戒感や欧州での新型コロナウイルスの感染再拡大、米国大統領選挙の結果に対する不透明感などが懸念材料となり、下落に転じました。

11月以降は、米国大統領選挙を終了して市場の今後の見通しに対する不透明感が和らいだこと、新型コロナウイルス向けワクチンの臨床試験で高い効果を示すデータが公表されたことなどから株価は反発に転じ、当作成期末にかけて大幅上昇となりました。

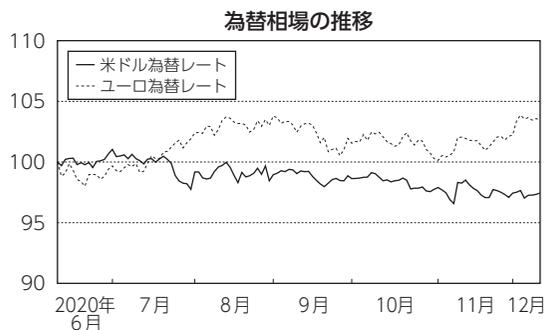


### ■為替相場

為替相場は、米ドル円相場は下落（円高）、ユーロ円相場は上昇（円安）しました。

米ドル円為替相場は、F R B（米国連邦準備制度理事会）が長期にわたる金融緩和姿勢を示したことなどから、ドル安円高基調で推移しました。

ユーロ円為替相場は、当作成期首より、大規模な財政政策による景気回復期待などから上昇しました。その後は、欧州圏での新型コロナウイルスの感染再拡大による景気減速懸念や追加緩和観測の高まりなどにより弱含みましたが、当作成期末にかけては、新型コロナウイルス向けワクチンへの期待感などから上昇しました。



## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

多くの先進国がロックダウン（都市封鎖）措置を緩和し始め、これまでのところ経済活動再開がおおむね順調に進んでいるものの、景気回復の時期や今後の見通しは依然として不透明です。しかし、世界主要国の中央銀行や政府が経済を下支えするために、前例のない金融政策や財政政策を迅速に打ち出したことは、感染再拡大が引き起こす経済への二次的な影響を大きく軽減させると考えられます。当面の間、市場の変動性が高い状態は続くと思われるものの、景気の見通しがより明らかになって市場が本格的に回復するまで、金融政策が市場全般を支え続けると考えています。

フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT（情報技術）を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2020.6.11~2020.12.10)

### ■当ファンド

当ファンドは、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネーストック・マザーファンドへ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通して、フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）を高位に組み入れました。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドの主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

当作成期は、「キャッシュレス・ビジネス」では、米国の金融サービス大手フィデリティ・ナショナル・インフォメーション・サービスやクレジットカード会社のビザなど、「フィンテック技術基盤」では、会計ソフトを提供する米国のインテュイットなど、「次世代金融リーダー」では、米国の資産運用会社ブラックロックなどに投資を行いました。同業他社と比較して割安になっていた米国の決済サービスを提供するウエックスや金融情報処理システム会社のファイサーブを新たに組み入れました。また、SaaS（ソフトウェア・アズ・ア・サービス）型クラウドサービスが好調で株価が上昇した米国のクラウドアプリケーションを提供する企業ワークデイの株式を全売却しました。

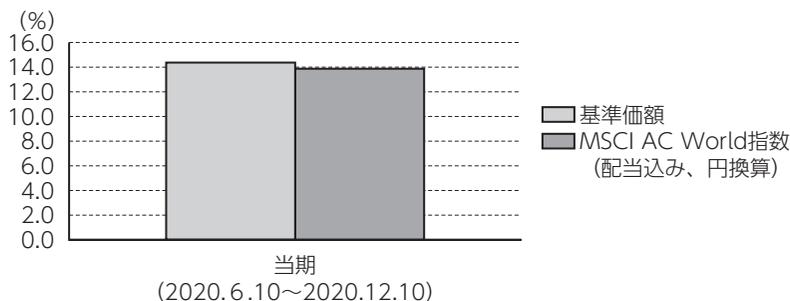
### ■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2020年6月11日 ～2020年12月10日	
<b>当期分配金（税込み）</b> (円)	<b>950</b>	
対基準価額比率 (%)	7.37	
当期の収益 (円)	950	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	1,943	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 1,613.22
(c) 収益調整金	128.11
(d) 分配準備積立金	1,152.58
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	2,893.92
(f) 分配金	950.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,943.92

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドが投資する「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」は、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマである「キャッシュレス・ビジネス」、「フィンテック技術基盤」、「次世代金融リーダー」に着目して、フィンテック企業に投資を行います。

株式市場は中期的に堅調に推移していくと考えます。新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたことにより、2021年の持続的な景気回復への期待が持てます。長期にわたって緩和的な金融政策が維持されると同時に財政支援策が2021年も継続される可能性が高く、これらの政策が株式市場全般を下支えするとみています。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現金決済からデジタル決済への移行が加速したことは、フィンテック分野への追い風となっています。また、コロナ危機の経験から、多くの企業は将来起こり得るパンデミック（世界的大流行）に備え、今後もビジネスに不可欠なデジタル化へ投資し続けていくと思われます。これらを背景に、今後も最先端のクラウド型ソリューション、臨機応変に対処可能なIT（情報技術）システム、サイバーセキュリティ、高性能のビッグデータやAI（人工知能）エンジンに対する強い需要が見込まれます。

フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のITを用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長をめざします。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2020.6.11~2020.12.10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	72円	0.618%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は11,722円です。
（投 信 会 社）	(23)	(0.193)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(48)	(0.414)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.011)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	73	0.620	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

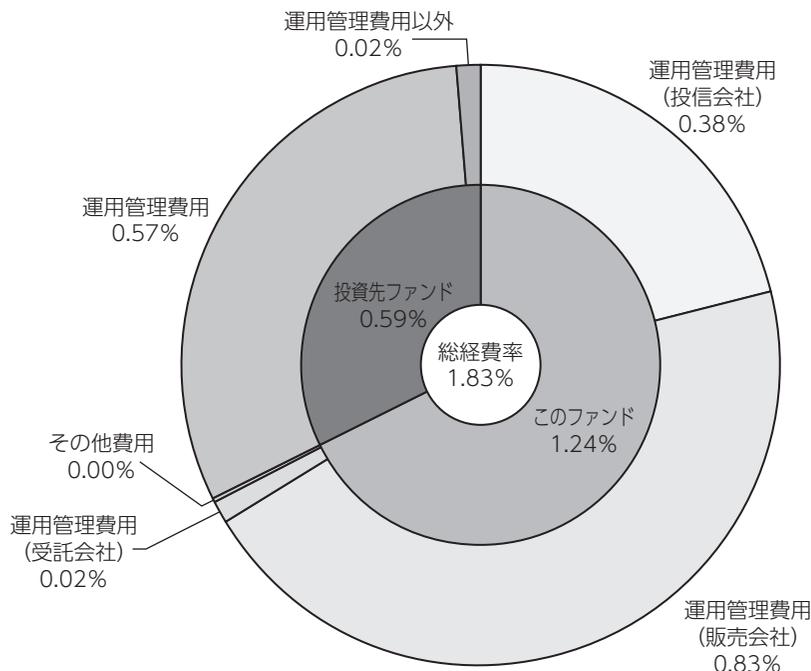
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。



総経費率 (①+②+③)	1.83%
①このファンドの費用の比率	1.24%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2020年6月11日から2020年12月10日まで)

国	買付	付		付	
		口数	金額	口数	金額
国内	アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	114,983.945	130,000	14,455,408.067	18,310,000

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	口数	評価額	比率
国内投資信託受益証券 アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド(ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	32,109,870.87	43,756,121	99.5%

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。  
(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	当 期 末		
	口数	口数	評価額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	0	0

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2020年12月10日現在

項目	当 期 末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	43,756,121	90.6%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0	0.0%
コール・ローン等、その他	4,550,366	9.4%
投資信託財産総額	48,306,488	100.0%

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年12月10日現在

項目	当 期 末
(A) 資産	48,306,488,684円
コール・ローン等	4,550,366,652
投資信託受益証券(評価額)	43,756,121,034
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	998
(B) 負債	4,347,519,695
未払収益分配金	3,496,792,751
未払解約金	537,950,254
未払信託報酬	311,649,457
その他未払費用	1,127,233
(C) 純資産総額(A - B)	43,958,968,989
元本	36,808,344,748
次期繰越損益金	7,150,624,241
(D) 受益権総口数	36,808,344,748口
1万口当り基準価額(C / D)	11,943円

\* 期首における元本額は49,067,487,261円、当作成期間中における追加設定元本額は1,838,818,152円、同解約元本額は14,097,960,665円です。  
\* 当期末の計算口数当りの純資産額は11,943円です。

■損益の状況

当 期 自2020年6月11日 至2020年12月10日

項目	当 期
(A) 配当等収益	△ 147,826円
受取利息	32,707
支払利息	△ 180,533
(B) 有価証券売買損益	6,250,918,724
売買益	6,998,756,390
売買損	△ 747,837,666
(C) 信託報酬等	△ 312,782,423
(D) 当期損益金(A + B + C)	5,937,988,475
(E) 前期繰越損益金	4,242,366,653
(F) 追加信託差損益金	467,061,864
(配当等相当額)	( 471,558,166)
(売買損益相当額)	(△ 4,496,302)
(G) 合計(D + E + F)	10,647,416,992
(H) 収益分配金	△ 3,496,792,751
次期繰越損益金(G + H)	7,150,624,241
追加信託差損益金	467,061,864
(配当等相当額)	( 471,558,166)
(売買損益相当額)	(△ 4,496,302)
分配準備積立金	6,683,710,203
繰越損益金	△ 147,826

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。  
(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。  
(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程(総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	5,938,024,018
(c) 収益調整金	471,558,166
(d) 分配準備積立金	4,242,478,936
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	10,652,061,120
(f) 分配金	3,496,792,751
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	7,155,268,369
(h) 受益権総口数	36,808,344,748口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	950円

●<分配金再投資コース>をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

**<補足情報>**

当ファンド（ワールド・フィンテック革命ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2020年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2020年12月10日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

**■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄**

2020年6月11日～2020年12月10日における主要な売買銘柄はありません。

**■組入資産明細表**

2020年12月10日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## 運用報告書 第11期 (決算日 2020年12月9日)

(作成対象期間 2019年12月10日～2020年12月9日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

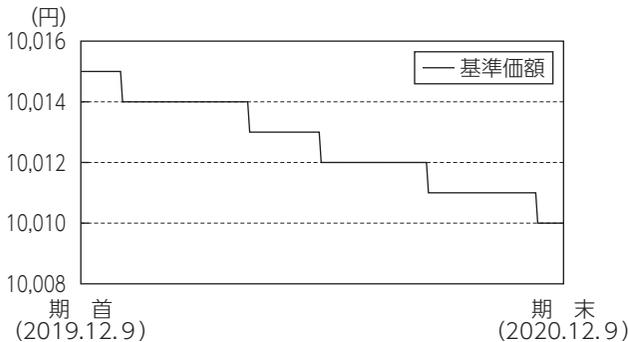
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率		
(期首)2019年12月9日	円	%	%
12月末	10,015	0.0	-
2020年 1 月末	10,014	△0.0	-
2 月末	10,014	△0.0	-
3 月末	10,014	△0.0	-
4 月末	10,013	△0.0	-
5 月末	10,013	△0.0	-
6 月末	10,012	△0.0	-
7 月末	10,012	△0.0	-
8 月末	10,011	△0.0	-
9 月末	10,011	△0.0	-
10 月末	10,011	△0.0	-
11 月末	10,010	△0.0	-
(期末)2020年12月9日	10,010	△0.0	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,015円 期末：10,010円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	0

(注1) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。  
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2020年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	88,460,615	100.0
投資信託財産総額	88,460,615	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	88,460,615,301円
コール・ローン等	88,460,615,301
(B) 負債	50,000,000
未払解約金	50,000,000
(C) 純資産総額(A - B)	88,410,615,301
元本	88,319,921,795
次期繰越損益金	90,693,506
(D) 受益権総口数	88,319,921,795口
1万口当り基準価額(C/D)	10,010円

\* 期首における元本額は103,532,314,258円、当作成期間中における追加設定元本額は103,255,612,211円、同解約元本額は118,468,004,674円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック-947,268円、ダイワ/ミレリアセット・インド株ファンド - インドの匠-29,910,270円、ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジあり) 998円、ワールド・フィンテック革命ファンド(為替ヘッジなし) 998円、新興国ソブリン・豪ドルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ブラジルレアルファンド(毎月決算型) 999円、新興国ソブリン・ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 999円、US短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型) 102,434円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (為替ヘッジあり) 39,849円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) - ロボテック(年1回) - (為替ヘッジあり) 3,985円、iFreeレパレッジ S & P 500 1,249,412,852円、iFreeレパレッジ N A S D A Q 100 11,006,295,149円、米国4資産リスク分散ファンド(年2回決算型) 689,912円、グリーンテック株式ファンド(資産成長型) 998,802円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド - ロボテック (毎月決算/予想分配金提示型) 999円、ダイワ上場投信-日経平均レパレッジ・インデックス2,927,475,552円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス6,683,086,104円、ダイワ上場投信-TOPIXレパレッジ(2倍) 指数1,085,050,377円、ダイワ上場投信-TOPIXダブルインバース(-2倍) 指数1,226,094,880円、ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス25,058,858,800円、ダイワ上場投信-TOPIXインバース(-1倍) 指数11,170,317,850円、ダイワ上場投信-JPX日経400レパレッジ・インデックス387,469,071円、ダイワ上場投信-JPX日経400インバース・インデックス611,537,975円、ダイワ上場投信-JPX日経400ダブルインバース・インデックス141,884,108円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-10 997円、ダイワ米国投資法人債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-10 997円、先進国トータルリターン戦略ファンド(リスク抑制型/適格機関投資家専用) 6,988,339,549円、ダイワ日本株ベア・ファンド(適格機関投資家専用) 19,374,063,390円、低リスク型アロケーションファンド(金利トレンド判断付き/適格機関投資家専用) 179,433,743円、ダイワ日本国債15-20年ラダー型ファンド・マネーポートフォリオ - S Lトレード-5,091,608円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ149,382,442円、ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ5,609,419円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース(毎月分配型) 595,106円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・レアル・コース(毎月分配型) 987,373円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース(毎月分配型) 494,581円、ダイワUS短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型) 9,957円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジあり) 997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジなし) 997円、ダイワ/ミレリアセット・細細株株式ファンド9,958,176円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 米ドル・コース1,989,053円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) ブラジル・レアル・コース2,978,118円、通貨選択型ダイワ/ミレリアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,691,241円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) - ロボテック(年1回) -100,588円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり(毎月分配型) 399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし(毎月分配型) 99,771円、通貨選択型ダイワ先進

国リートα 円ヘッジコース(毎月分配型) 399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース(毎月分配型) 99,771円、ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジあり) 1,091,429円、ダイワ/ミレリアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジなし) 315,004円、ダイワ/ミレリアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 日本円・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース(毎月分配型) 99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- ブラジル・レアル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 米ドル・コース(毎月分配型) 398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型) - ジャパン・トリプルリターンズ- 通貨セレクト・コース(毎月分配型) 1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 日本円・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 豪ドル・コース200,861円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 ブラジル・レアル・コース300,273円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 米ドル・コース1,999,177円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド - イーグルアイII - 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース505,900円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,010円です。

■損益の状況

当期 自2019年12月10日 至2020年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 34,974,173円
受取利息	1,075,374
支払利息	△ 36,049,547
(B) その他費用	△ 1,522,123
(C) 当期損益金(A + B)	△ 36,496,296
(D) 前期繰越損益金	156,051,230
(E) 解約差損益金	△161,476,434
(F) 追加信託差損益金	132,615,006
(G) 合計(C + D + E + F)	90,693,506
次期繰越損益金(G)	90,693,506

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり
商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	約5年（2023年6月8日まで）	
運用方針	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	マザーファンドの受益証券
	マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ベビーファンドの運用方法	<p>1. 主として、マザーファンドの受益証券を通じて日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。</p> <p>※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。</p> <p>2. マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p>	<p>3. 実質組入外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。</p> <p>※一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わない、または他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。</p>
	<p>3. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p>	<p>4. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
マザーファンドの運用方法	<p>1. 主として、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。</p> <p>※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。</p> <p>2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。</p> <p>イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式の中から、金融・経済情勢などを勘案した上で、フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定します。その中から、流動性の低い銘柄を除外したものを投資対象銘柄として選定します。</p> <p>ロ) 投資対象銘柄の中から、詳細なファンダメンタル企業分析を行い、中長期的な収益成長性、フィンテック分野における優位性、新しい技術を開発または活用する能力、市場をリードする商品・サービスの有無、強力な経営陣などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</p> <p>ハ) 選定した組入候補銘柄から、株価の上昇期待度や下落の余地、ポートフォリオ全体のリスクなどを考慮して、確信度に基づいて組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</p>	<p>3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p> <p>4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。</p> <p>5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	<p>3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p>	<p>4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。</p> <p>5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。	
	<p>①分配対象額の範囲内は繰越分を含めた利益、配当等収益と売買益（繰越欠損補填後、評価損益を含む）等の金額とします。</p> <p>②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の配分金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

# アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド (為替ヘッジなし／為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

## 運用報告書（全体版）

第5期（決算日 2020年11月10日）

### 受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし／為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」は、このたび第5期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のフィンテック関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
東京都港区白田1-17-3 NBFプラチナタワー14階  
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》

電話番号：03-5447-3160

受付時間：9：00～17：00（土日祭日を除く）

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			株組入比率	純資産額
	(分配落)	税金 込 分 配 金	期騰 落 中 率		
(設定日) 2018年6月12日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 16,658
1期(2018年11月12日)	9,694	0	△ 3.1	93.8	80,568
2期(2019年5月10日)	10,385	0	7.1	96.6	83,100
3期(2019年11月11日)	11,018	0	6.1	97.0	67,521
4期(2020年5月11日)	10,397	0	△ 5.6	94.3	48,595
5期(2020年11月10日)	13,027	0	25.3	94.2	53,700

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年月日	基準価額		株組入比率
		騰落率	
(期首) 2020年5月11日	円 10,397	% —	% 94.3
5月末	11,010	5.9	94.4
6月末	11,528	10.9	95.1
7月末	11,989	15.3	91.6
8月末	12,764	22.8	95.0
9月末	12,159	16.9	96.2
10月末	11,660	12.1	93.5
(期末) 2020年11月10日	13,027	25.3	94.2

(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			株組入比率	純資産額
	(分配落)	税金 分配 基金	期騰 落 中率		
(設定日) 2018年6月12日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 3,827
1期(2018年11月12日)	9,459	0	△ 5.4	94.4	13,824
2期(2019年5月10日)	10,401	0	10.0	94.5	14,586
3期(2019年11月11日)	11,039	0	6.1	97.3	10,516
4期(2020年5月11日)	10,697	0	△ 3.1	89.4	8,199
5期(2020年11月10日)	13,286	0	24.2	95.2	7,808

(注1) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

年月日	基準価額		株組入比率
		騰落率	
(期首) 2020年5月11日	円 10,697	% —	% 89.4
5月末	11,197	4.7	91.5
6月末	11,665	9.0	95.5
7月末	12,322	15.2	91.2
8月末	12,997	21.5	94.7
9月末	12,396	15.9	97.0
10月末	12,011	12.3	93.0
(期末) 2020年11月10日	13,286	24.2	95.2

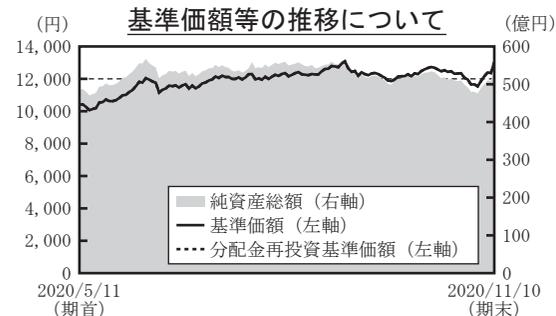
(注1) 基準価額は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

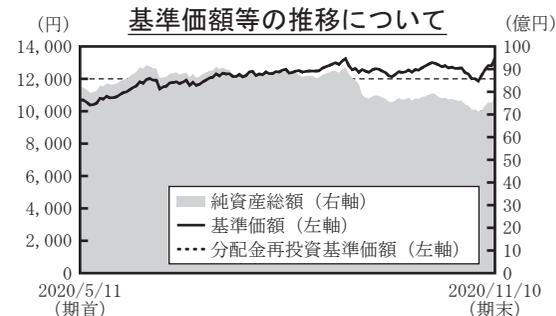
■当期の運用状況（2020年5月12日～2020年11月10日）

為替ヘッジなし



期首：10,397円  
 期末：13,027円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰落率：25.3%（分配金再投資ベース）

為替ヘッジあり



期首：10,697円  
 期末：13,286円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰落率：24.2%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

○為替ヘッジなし

当期は、米国を中心に保有銘柄の株価が全般的に上昇しプラス寄与となり、基準価額は上昇しました。

○為替ヘッジあり

当期は、米国を中心に保有銘柄の株価が全般的に上昇しプラス寄与となり、基準価額は上昇しました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル株式市場は、5月から欧州や米国が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のためのロックダウン（都市封鎖）措置を徐々に緩和し経済活動再開への期待が高まったことや、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬開発、主要中央銀行による金融緩和政策を受けて堅調に推移しました。6月も景気回復の流れに乗り、7月には2020年4～6月期決算報告が好調だったことを背景に株価は上昇しました。8月も引き続き投資家の予想以上に高い収益を上げたIT大型株に牽引されて堅調に推移し、フィンテック分野の多くの企業も新型コロナウイルス感染症危機の恩恵を受けて売上高と営業利益の増加を発表しました。9月に入ると、欧州で新型コロナウイルス感染再拡大により多くの国で新たな感染拡大抑制策が出されたことから急速な景気回復への期待が遠のき徐々に後退しました。10月には欧州や米国で新型コロナウイルスの感染者が急増し、各国で再び制限措置をとることが決定されたことや間近に控えた米国大統領選挙の行方が混沌としていることも市場に重くのしかかり下落に転じました。しかしながら、11月の米国大統領選挙で民主党候補バイデン氏の勝利が確実となった一方で議会上院は共和党という「ねじれ国会」の公算が大きくなった為、バイデン氏が公約として掲げている「金融やIT業界の規制強化」の実現は難航する可能性が高いとの見方からハイテク株を中心に株価が上昇しました。また、米国の製薬会社ファイザーが開発中のワクチンの臨床試験について「90%を超える予防効果がある」とする暫定的な結果を発表したことも株価上昇に寄与しました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初は107円台から期末には105円台となり、ユーロ・円レートは期初の116円台から期末には124円台となりました。

当期は、新型コロナウイルスの急激な感染拡大が世界経済へ及ぼす影響が懸念され、米ドルは安全資産と考えられている円に対する需要が強まり円高が進行し、ユーロはEUの復興基金創設や欧州共同債発行に対する期待などによりユーロ高が進行しました。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。企業規模の面ではビザやグローバル・ペイメントのような大型株からWEXやフィネコ・バンクなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

期の前半は、英国のネットワーク・インターナショナル・ホールディングス、米国のクラウドストライク・ホールディングスを新規に組み入れました。また、新型コロナウイルス感染症拡大により変化した事業体系や消費行動から恩恵を受けやすい銘柄を積み増ししました。期の後半には、景気回復を念頭に株価の上昇を予測して米国のWEXを新規に組み入れました。また、米国のワークデイを利益確定で売却しました。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

○為替ヘッジなし

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第5期
		2020年5月12日～2020年11月10日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		3,027

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

○為替ヘッジあり

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

		第5期
		2020年5月12日～2020年11月10日
当期分配金		—
	（対基準価額比率）	—%
	当期の収益	—
	当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額		3,364

（注1）「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

（注2）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細（2020年5月12日～2020年11月10日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	34円	0.287%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は11,946円です。
（投 信 会 社）	(33)	(0.276)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	( 0)	(0.001)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	( 1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	4	0.037	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	( 4)	(0.037)	
そ の 他 費 用	1	0.012	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	( 0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	( 1)	(0.011)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	40	0.336	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2020年5月12日～2020年11月10日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド	1,095,351	1,300,000	6,990,606	8,630,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2020年5月12日～2020年11月10日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	34,950,218千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	57,105,705千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	0.61

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2020年5月12日～2020年11月10日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2020年5月12日～2020年11月10日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2020年11月10日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首（前期末）	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 46,355,376	千口 40,460,121	千円 53,318,348

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2020年11月10日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	53,318,348	99.0
コール・ローン等、その他	534,379	1.0
投資信託財産総額	53,852,727	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（59,206,210千円）の投資信託財産総額（61,148,111千円）に対する比率は、96.8%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=105.21円、1香港ドル=13.57円、1シンガポールドル=78.11円、1英ポンド=138.52円、1スイスフラン=115.16円、1ノルウェークローネ=11.62円、100インドネシアルピア=0.75円、100韓国ウォン=9.42円、1南アフリカランド=6.83円、1ユーロ=124.27円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2020年11月10日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	53,852,727,190円
コール・ローン等	534,379,066
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	53,318,348,124
(B) 負 債	152,208,311
未払信託報酬	151,614,311
その他未払費用	594,000
(C) 純資産総額(A-B)	53,700,518,879
元 本	41,221,755,243
次期繰越損益金	12,478,763,636
(D) 受益権総口数	41,221,755,243口
1万口当り基準価額(C/D)	13,027円

1. 期首元本額 46,740,558,699円  
 期中追加設定元本額 5,160,211,291円  
 期中一部解約元本額 10,679,014,747円
2. 1口当り純資産額 1,3027円

■損益の状況

当期（自 2020年5月12日 至 2020年11月10日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 110,566円
受 取 利 息	13,032
支 払 利 息	△ 123,598
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	10,243,220,168
売 買 益	11,957,997,980
売 買 損	△ 1,714,777,812
(C) 信 託 報 酬 等	△ 152,210,623
(D) 当期損益金(A+B+C)	10,090,898,979
(E) 前期繰越損益金	1,690,030,670
(F) 追加信託差損益金	697,833,987
(配当等相当額)	( 536,615,115)
(売買損益相当額)	( 161,218,872)
(G) 計 (D+E+F)	12,478,763,636
次期繰越損益金(G)	12,478,763,636
追加信託差損益金	697,833,987
(配当等相当額)	( 539,955,167)
(売買損益相当額)	( 157,878,820)
分配準備積立金	11,780,929,649

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（214,468,571円）、費用控除後の有価証券等損益額（7,568,310,433円）、信託約款に規定する収益調整金（697,833,987円）および分配準備積立金（3,998,150,645円）より分配対象収益は12,478,763,636円（10,000口当たり3,027.23円）ですが、当期に分配した金額はありません。

■ 1万口当たりの費用明細（2020年5月12日～2020年11月10日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	35円	0.287%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は12,161円です。
（投 信 会 社）	(34)	(0.276)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	(0)	(0.000)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(1)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	5	0.037	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	(5)	(0.037)	
そ の 他 費 用	2	0.018	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(1)	(0.011)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	42	0.342	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■ 売買及び取引の状況（2020年5月12日～2020年11月10日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド	265,957	300,000	1,746,922	2,142,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2020年5月12日～2020年11月10日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	34,950,218千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	57,105,705千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	0.61

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2020年5月12日～2020年11月10日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2020年5月12日～2020年11月10日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2020年11月10日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首（前期末）	当 期		末
	口 数	口 数	評 価	額
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	千口 7,422,322	千口 5,941,357	千円	千円 7,829,521

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

（2020年11月10日現在）

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド	7,829,521	99.3
コー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	58,587	0.7
投 資 信 託 財 産 総 額	7,888,109	100.0

（注1）評価額の単位未満は切捨て。

（注2）アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建て資産（59,206,210千円）の投資信託財産総額（61,148,111千円）に対する比率は、96.8%です。

（注3）外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=105.21円、1香港ドル=13.57円、1シンガポールドル=78.11円、1英ポンド=138.52円、1スイスフラン=115.16円、1ノルウェークローネ=11.62円、100インドネシアルピア=0.75円、100韓国ウォン=9.42円、1南アフリカランド=6.83円、1ユーロ=124.27円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

（2020年11月10日現在）

項 目	当 期 末
(A) 資 産	15,064,861,552円
コー ル ・ ロ ー ン 等	57,441,774
アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド(評価額)	7,829,521,534
未 収 入 金	7,177,898,244
(B) 負 債	7,256,837,893
未 払 金	7,232,215,856
未 払 信 託 報 酬	24,028,037
そ の 他 未 払 費 用	594,000
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	7,808,023,659
元 本	5,876,739,983
次 期 繰 越 損 益 金	1,931,283,676
(D) 受 益 権 総 口 数	5,876,739,983口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C/D)	13,286円

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 期首元本額     | 7,665,119,972円 |
| 期中追加設定元本額    | 128,193,799円   |
| 期中一部解約元本額    | 1,916,573,788円 |
| 2. 1口当たり純資産額 | 1,3286円        |

■損益の状況

当期（自 2020年5月12日 至 2020年11月10日）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 28,628円
受 取 利 息	7,057
支 払 利 息	△ 35,685
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	1,545,121,288
売 買 益	2,097,306,475
売 買 損	△ 552,185,187
(C) 先 物 取 引 等 損 益	△ 9,148,997
取 引 益	7,338,115
取 引 損	△ 16,487,112
(D) 信 託 報 酬 等	△ 24,628,706
(E) 当 期 損 益 金 (A+B+C+D)	1,511,314,957
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	450,940,490
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 30,971,771
(配 当 等 相 当 額)	( 14,770,170)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 45,741,941)
(H) 計 (E+F+G)	1,931,283,676
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	1,931,283,676
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 30,971,771
(配 当 等 相 当 額)	( 14,927,755)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 45,899,526)
分 配 準 備 積 立 金	1,962,255,447

（注1）損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

（注2）損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

（注3）損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注4）計算期間末における費用控除後の配当等収益（31,513,294円）、費用控除後の有価証券等損益額（1,277,488,320円）、信託約款に規定する収益調整金（14,927,755円）および分配準備積立金（653,253,833円）より分配対象収益は1,977,183,202円（10,000口当たり3,364.42円）ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（DR（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<p>1. 主として、日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行います。投資にあたっては、①キャッシュレス・ビジネス、②テクノロジーを積極的に取り込む金融ビジネス、③フィンテックの技術基盤の3つの成長テーマに着目します。</p> <p>※当ファンドにおいてフィンテック関連企業とは、多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をいいます。</p> <p>2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行うことを基本とします。</p> <p>イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式の中から、金融・経済情勢などを勘案した上で、フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定します。その中から、流動性の低い銘柄を除外したものを投資対象銘柄として選定します。</p> <p>ロ) 投資対象銘柄の中から、詳細なファンダメンタル企業分析を行い、中長期的な収益成長性、フィンテック分野における優位性、新しい技術を開発または活用する能力、市場をリードする商品・サービスの有無、強力な経営陣などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。</p> <p>ハ) 選定した組入候補銘柄から、株価の上昇期待度や下落の余地、ポートフォリオ全体のリスクなどを考慮して、確信度に基づいて組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。</p> <p>3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。</p> <p>4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに運用の指図に関する権限を委託します。</p> <p>5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
株式組入制限	無制限

## アクサ IM・グローバル・ フィンテック関連株式マザーファンド

### 運用報告書

第2期（決算日：2020年5月11日）

（計算期間 2019年5月11日～2020年5月11日）

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		株式組入比率	純資産額
		期騰	中率		
(設定日) 2018年6月12日	円 10,000	% —	% —	% —	百万円 20,485
1期(2019年5月10日)	10,402	4.0	96.6	97,351	
2期(2020年5月11日)	10,478	0.7	94.3	56,348	

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

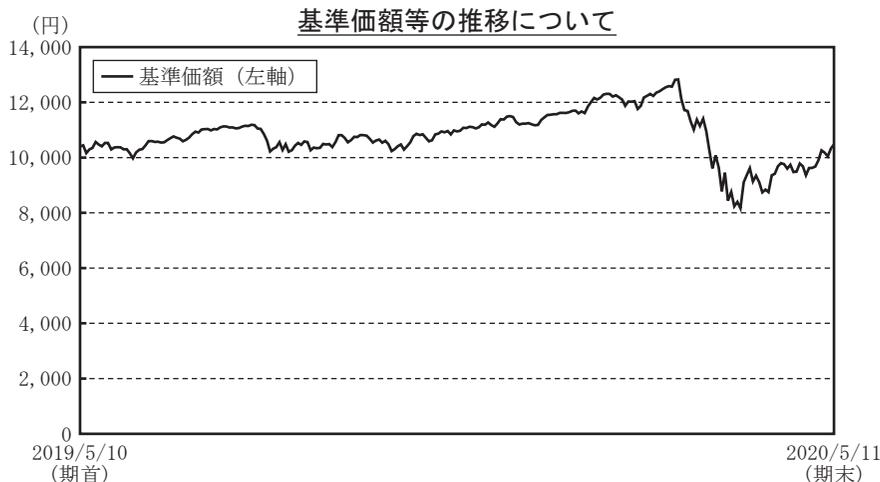
■当期中の基準価額の推移

年月日	基準価額	騰落率		株式組入比率
		騰	落率	
(期首) 2019年5月10日	円 10,402	% —	% 96.6	% 96.6
5月末	10,304	△ 0.9	92.6	92.6
6月末	10,720	3.1	94.3	94.3
7月末	11,051	6.2	93.4	93.4
8月末	10,493	0.9	93.4	93.4
9月末	10,539	1.3	95.2	95.2
10月末	10,964	5.4	94.3	94.3
11月末	11,501	10.6	93.4	93.4
12月末	11,704	12.5	94.0	94.0
2020年1月末	12,041	15.8	94.1	94.1
2月末	11,309	8.7	94.1	94.1
3月末	9,346	△10.2	96.5	96.5
4月末	10,264	△ 1.3	94.9	94.9
(期末) 2020年5月11日	10,478	0.7	94.3	94.3

(注1) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2019年11月12日～2020年5月11日）



【基準価額の主な変動要因】

当期は、円高がマイナス要因になったものの、主に米国、日本の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

当期のグローバル金融市場は、変動の激しい展開となりました。5月は、米中貿易摩擦激化懸念が高まり、株式市場は急落しました。6月に米中首脳会談が行われ、米中関係に進展が見られたことを受け、株式市場は急回復を見せました。8月にトランプ大統領が対中追加関税第4弾を9月に発動すると表明したことを受け、株式市場は下落しました。しかしその後、米中協議の部分合意等を受け、S & P 500指数は史上最高値を、日経平均株価は年初来高値を更新する等、各国の株式市場は上昇基調となり、2019年は堅調のまま取引を終えました。2020年1月の後半に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、急速に世界各地へ拡大し、その経済への影響が懸念され、各国の株式市場は下落しました。3月にはWHO（世界保健機構）がパンデミックを宣言し、多くの国でロックダウン（都市封鎖）措置が取られました。これにより経済活動が大幅に制限され、グローバル株式市場は記録的な下げ相場となりました。4月には一転、米国を中心に株式市場は大きく反発しました。5月には多くの国でロックダウン措置が段階的に緩和されること、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬開発、主要中央銀行による金融緩和政策、各国政府の緊急経済政策などが株式市場を支えました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初は109円台から期末には106円台となり、ユーロ・円レートは期初の123円台から期末には116円台となりました。

当期は、前半は米中関係が悪化しリスク回避姿勢が高まると、安全資産と考えられている円に対する需要が強まり円高となり、米中貿易摩擦懸念が緩和されると円安になる、というサイクルで為替が変動しました。後半は、新型コロナウイルスの急激な感染拡大が世界経済へ及ぼす影響が懸念され、円に対する需要が強まり、結果として円高となりました。

### 【ポートフォリオについて】

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。企業規模の面ではペイパルやビザのような大型株からフィネコ・バンク、プルーフポイントなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではフィンテック関連企業の技術革新において先進的な地域である米国を中心に、グローバルに投資をしています。

期の前半は、米国のビックデータソフトウェア会社タブロー・ソフトウェアを全売却しました。同社はセールスフォースにより大幅なプレミアムの買取価格での買取が発表されたため、利益確定のため全売却しました。また、英国のセキュリティソフトウェアを提供するソフォスを全売却し、米国のセキュリティサービス会社ゼットスケラーを組み入れました。その他、ALDやDNB銀行など、金利の変動に感応度の高い銘柄のポジションを引き下げ、Eトレード・フィナンシャルの購入を開始しました。後半は、スペインのサンタンデル銀行、南アフリカの銀行キャピテック・バンク・ホールディングスを新規に組み入れ、スイスのバンキングシステム向けソフトウェア企業テメノス、米国のクラウドアプリケーションを提供する企業ワークデイ、米国の資産運用会社ブラックロックを再び組み入れました。3月に入り、株式市場が急落した局面をとらえて割安になった英国のロンドン証券取引所を新たに組み入れました。4月には、ロックダウンの影響を強く受けるとみられる業界に顧客を多く持つ米国の決済会社フリートコア・テクノロジーズ、米国のソフトウェア企業スクエアを全売却しました。

### 【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

### 【今後の運用方針】

当ファンドは、テクノロジー企業と金融機関が協業して生まれるフィンテック市場の動きを捉え、3つの成長テーマであるキャッシュレス・ビジネス、フィンテック技術基盤、次世代金融リーダーに着目して、フィンテック企業に投資を行います。フィンテックは、金融業務の効率性を高めるだけのものではなく、最新のIT技術を用いた新たな金融サービスであり、サービスの広がりと共に市場が大きく拡大していく革命です。この動きはこれからさらに本格化し、10年以上続く成長市場になっていくと予想しています。当ファンドは、長期トレンドを捉える成長企業に投資することでファンドの成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細 (2019年5月11日～2020年5月11日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	8円 ( 8)	0.072% (0.072)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
そ の 他 費 用 (そ の 他)	8 ( 8)	0.074 (0.074)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合 計	16	0.146	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。期中の平均基準価額は10,786円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況 (2019年5月11日～2020年5月11日)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	日 本	千株 119.6	千円 892,112	千株 434.6	千円 1,769,709
	外	百株 18,911.86 (△1,225.25)	千米ドル 139,158 (△36,327)	百株 41,705.94	千米ドル 418,774
国	オーストラリア	—	千オーストラリアドル —	1,739.99	千オーストラリアドル 14,175
	香 港	4,639	千香港ドル 66,856	41,815	千香港ドル 284,240
	シンガポール	279	千シンガポールドル 666	4,835	千シンガポールドル 12,401
	イギリス	2,112.4	千英ポンド 8,199	40,640.52	千英ポンド 32,951
	スイス	891.39	千スイスフラン 13,050	76.96	千スイスフラン 1,208
	デンマーク	15.74	千デンマーククローネ 958	1,122.93	千デンマーククローネ 82,283
	ノルウェー	4,865.29	千ノルウェークローネ 76,968	12,308.31	千ノルウェークローネ 131,862
	インドネシア	695	千インドネシアルピア 2,094,911	19,592	千インドネシアルピア 60,531,151
	南アフリカ	982.45	千南アフリカランド 132,418	56.77	千南アフリカランド 8,073
	ポーランド	—	千ポーランドズロチ —	682.95	千ポーランドズロチ 3,562

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	ユーロ	百株	千ユーロ	百株	千ユーロ
	オ ラ ン ダ	13,447.42	10,925	14,644.38	15,007
	フ ラ ン ス	5,380.4	7,346	7,301.07	23,145
	ド イ ツ	117.97	2,428	902.94	19,625
	ス ペ イ ン	31,892.57	11,808	1,574.25	585
	イ タ リ ア	13,375.59	15,274	16,470.96	17,244

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) ( )内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切り捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2019年5月11日～2020年5月11日)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	98,093,244千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	70,634,784千円
(c) 売 買 高 比 率(a)/(b)	1.38

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄 (2019年5月11日～2020年5月11日)

買 付		売 付					
銘 柄	株 数	金 額	平均単価	銘 柄	株 数	金 額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
STONECO LTD-A	579.979	1,942,143	3,348	PAYPAL HOLDINGS INC	268.012	3,324,284	12,403
ZSCALER INC	360.628	1,884,019	5,224	S&P GLOBAL INC	113.591	3,193,120	28,110
AMERICAN EXPRESS COMPANY	118.47	1,607,968	13,572	HDFC BANK LTD-ADR	362.004	2,899,261	8,008
TEMENOS GROUP AG-REG	89.139	1,469,441	16,484	GLOBAL PAYMENTS INC	132.335	2,496,812	18,867
VERISK ANALYTICS INC	91.779	1,453,883	15,841	FLEETCOR TECHNOLOGIES INC	90.987	2,443,730	26,858
BANCO SANTANDER SA	3,189.257	1,436,202	450	VISA INC.	121.513	2,398,401	19,737
BLACKROCK INC	23.981	1,402,483	58,483	ALLIANZ SE	90.294	2,384,732	26,410
ING GROEP NV-CVA	1,344.742	1,308,091	972	EXPERIAN PLC	629.653	2,290,309	3,637
NEXI SPA	684.879	1,083,648	1,582	SOPHOS GROUP PLC	3,434.399	2,250,445	655
WORKDAY INC-CLASS A	59.215	1,053,778	17,795	TABLEAU SOFTWARE INC-CL A	118.731	2,167,662	18,256

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2019年5月11日～2020年5月11日）

期中の利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2019年5月11日～2020年5月11日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2020年5月11日現在）

(1) 国内株式

銘柄	株数	当期末		
		評価額		
		株数	金額	
	千株	千株	千円	
情報・通信業 (58.8%)				
GMOペイメントゲートウェイ	120	95	964,250	
証券、商品先物取引業 (41.2%)				
SBIホールディングス	601	312	675,168	
合計	株数・金額	722	407	1,639,418
	銘柄数<比率>	2	2	<2.9%>

（注1）銘柄欄の（ ）内は国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

（注2）合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

（注3）単位未満は切捨て。

(2) 外国株式

銘柄	株数	株数	当期末		業種等
			評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
ALIBABA GROUP HOLDING-SP ADR	1,667	714	14,377	1,537,710	小売
AMERICAN EXPRESS COMPANY	1,669	1,558	13,950	1,491,953	各種金融
BLACKLINE INC	3,124	929	5,946	636,008	ソフトウェア・サービス
BLACKROCK INC	—	212	10,582	1,131,810	各種金融
CITIGROUP INC.	2,175	1,650	7,645	817,645	銀行
ENVESTNET INC	2,351	1,300	8,701	930,602	ソフトウェア・サービス
FIDELITY NATIONAL INFORMATIO	—	1,941	24,899	2,662,995	ソフトウェア・サービス
FLEETCOR TECHNOLOGIES INC	759	—	—	—	ソフトウェア・サービス
GLOBAL PAYMENTS INC	2,753	1,564	27,391	2,929,481	ソフトウェア・サービス
GUIDEWIRE SOFTWARE INC	962	624	6,075	649,749	ソフトウェア・サービス
HDFC BANK LTD-ADR	2,870	1,228	4,984	533,100	銀行
INTUIT INC	691	455	12,782	1,367,113	ソフトウェア・サービス
JPMORGAN CHASE & CO.	1,784	1,063	9,856	1,054,183	銀行
PALO ALTO NETWORKS INC	1,445	701	14,999	1,604,214	ソフトウェア・サービス
PAYPAL HOLDINGS INC	4,157	2,277	33,016	3,531,148	ソフトウェア・サービス
PROOFPOINT INC	1,644	836	10,139	1,084,433	ソフトウェア・サービス
Q2 HOLDINGS INC	2,655	1,126	9,324	997,231	ソフトウェア・サービス
S&P GLOBAL INC	1,511	393	11,707	1,252,145	各種金融

アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンド

銘柄	株数	株数	期末		業種等
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
SQUARE INC - A	2,652	—	—	—	ソフトウェア・サービス
TABLEAU SOFTWARE INC-CL A	1,187	—	—	—	ソフトウェア・サービス
VERISK ANALYTICS INC	1,012	946	15,102	1,615,229	商業サービス・用品
VISA INC.	2,494	1,498	27,734	2,966,198	ソフトウェア・サービス
WORKDAY INC-CLASS A	—	532	8,815	942,821	ソフトウェア・サービス
WORLDPAY INC-CLASS A	4,023	—	—	—	ソフトウェア・サービス
ZSCALER INC	—	1,842	13,634	1,458,208	ソフトウェア・サービス
PAGSEGURO DIGITAL LTD-CL A	7,574	2,969	8,500	909,113	ソフトウェア・サービス
STONECO LTD-A	—	3,654	10,270	1,098,429	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	51,172 22	30,023 23	310,439 —	33,201,526 <58.9%>
(オーストラリア)			千オーストラリア ドル		
AUSTRALIAN STOCK EXCHANGE	1,739	—	—	—	各種金融
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,739 1	— —	— —	— <—>
(香港)			千香港ドル		
PING AN INSURANCE GROUP CO-H	21,900	13,780	108,310	1,494,689	保険
TENCENT HOLDINGS LTD	4,327	2,275	95,140	1,312,938	メディア・娯楽
ZHONGAN ONLINE P&C INSURAN-H	49,696	22,692	64,672	892,476	保険
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	75,923 3	38,747 3	268,123 —	3,700,104 <6.6%>
(シンガポール)			千シンガポール ドル		
DBS GROUP HOLDINGS LTD	13,458	8,902	17,536	1,327,020	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	13,458 1	8,902 1	17,536 —	1,327,020 <2.4%>
(イギリス)			千英ポンド		
LONDON STOCK EXCHANGE GROUP	—	757	5,932	788,177	各種金融
EXPERIAN PLC	8,374	3,432	8,927	1,185,961	商業サービス・用品
SOPHOS GROUP PLC	34,343	—	—	—	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	42,718 2	4,190 2	14,859 —	1,974,139 <3.5%>
(スイス)			千スイスフラン		
TEMENOS GROUP AG-REG	—	814	10,754	1,185,151	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	— —	814 1銘柄	10,754 —	1,185,151 <2.1%>
(デンマーク)			千デンマーク クローネ		
SIMCORP A/S	1,107	—	—	—	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,107 1	— —	— —	— <—>
(ノルウェー)			千ノルウェー クローネ		
DNB ASA	7,150	6,944	82,015	856,236	銀行
SBANKEN ASA	16,167	8,929	48,757	509,029	銀行
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	23,317 2	15,874 2	130,772 —	1,365,266 <2.4%>

銘柄	株数	株数	期末		業種等		
			株数	株数		評価額	
						外貨建金額	邦貨換算金額
(インドネシア)	百株	百株	千インドネシア ルピア	千円			
BANK CENTRAL ASIA TBK PT	47,975	29,078	76,257,055	541,425	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	47,975 1	29,078 1	76,257,055 —	541,425 <1.0%>		
(南アフリカ)			千南アフリカ ランド				
CAPITEC BANK HOLDINGS LTD	—	925	81,323	474,117	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	— —	925 1	81,323 —	474,117 <0.8%>		
(ポーランド)			千ポーランド ズロチ				
ALIOR BANK SA	682	—	—	—	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	682 1	— —	— —	— <—>		
(オランダ)			千ユーロ				
ING GROEP NV-CVA	14,695	13,498	6,843	793,899	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	14,695 1	13,498 1	6,843 —	793,899 <1.4%>		
(フランス)			千ユーロ				
ALD SA	7,752	8,342	8,233	955,096	運輸		
WORLDDLINE SA	5,082	2,572	17,013	1,973,599	ソフトウェア・サービス		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	12,835 2	10,914 2	25,247 —	2,928,696 <5.2%>		
(ドイツ)			千ユーロ				
ALLIANZ SE	1,327	542	8,560	993,011	保険		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,327 1	542 1	8,560 —	993,011 <1.8%>		
(スペイン)			千ユーロ				
BANCO SANTANDER SA	—	30,318	6,057	702,681	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	— —	30,318 1	6,057 —	702,681 <1.2%>		
(イタリア)			千ユーロ				
NEXI SPA	—	5,782	8,072	936,425	ソフトウェア・サービス		
FINECOBANK SPA	21,186	12,308	11,911	1,381,775	銀行		
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	21,186 1	18,090 2	19,984 —	2,318,201 <4.1%>		
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	50,045 5	73,365 7	66,693 —	7,736,490 <13.7%>		
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	308,139 39	201,920 41	— —	51,505,241 <91.4%>		

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 小計欄の< >内は純資産総額に対する各通貨別評価額の比率。

(注3) 合計欄の< >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注4) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2020年5月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株 式	53, 144, 659	94. 2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3, 253, 820	5. 8
投 資 信 託 財 産 総 額	56, 398, 480	100. 0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 期末における外貨建て資産 (54, 120, 846千円) の投資信託財産総額 (56, 398, 480千円) に対する比率は、96.0%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=106.95円、1香港ドル=13.80円、1シンガポールドル=75.67円、1英ポンド=132.85円、1スイスフラン=110.20円、1ノルウェークローネ=10.44円、100インドネシアルピア=0.71円、1南アフリカランド=5.83円、1ユーロ=116.00円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年5月11日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	56, 398, 480, 786円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	2, 744, 732, 234
株 式(評価額)	53, 144, 659, 860
未 収 入 金	383, 635, 022
未 収 配 当 金	125, 453, 670
(B) 負 債	50, 073, 365
未 払 解 約 金	50, 000, 000
そ の 他 未 払 費 用	73, 365
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	56, 348, 407, 421
元 本	53, 777, 699, 413
次 期 繰 越 損 益 金	2, 570, 708, 008
(D) 受 益 権 総 口 数	53, 777, 699, 413口
1万口当り基準価額(C/D)	10, 478円

1. 期首元本額 93, 585, 077, 567円  
期中追加設定元本額 -円  
期中一部解約元本額 39, 807, 378, 154円
2. 1口当たりの純資産額 1. 0478円
3. 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額  
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド (為替なし) 46, 355, 376, 624円  
アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド (為替あり) 7, 422, 322, 789円  
期末元本合計 53, 777, 699, 413円

■損益の状況

(2019年5月11日～2020年5月11日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	691, 690, 477円
受 取 配 当 金	649, 869, 628
受 取 利 息	42, 519, 604
そ の 他 収 益 金	11, 966
支 払 利 息	△ 710, 721
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	2, 694, 860, 552
売 買 益	12, 303, 268, 625
売 買 損	△ 9, 608, 408, 073
(C) そ の 他 費 用	△ 19, 402, 789
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	3, 367, 148, 240
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	3, 766, 181, 614
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 4, 562, 621, 846
(G) 計 (D+E+F)	2, 570, 708, 008
次 期 繰 越 損 益 金(G)	2, 570, 708, 008

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。